

特別展 まるごと奈良博

ー奈良国立博物館 至高の仏教美術コレクションー



国宝《薬師如来坐像》平安時代（9世紀） 奈良国立博物館蔵
ー「まるごと奈良博ー奈良国立博物館 至高の仏教美術コレクションー」よりー

■ 歴代藩主の甲冑・陣羽織と加賀象嵌鎧Ⅱ

【前田育徳会尊經閣文庫分館】

■ 九谷焼【古美術】

■ 優品選【近現代絵画・彫刻】

■ まるごと魅せます いしかわの工芸【近現代工芸】

- 7月の行事予定
- 0才からのファミリー鑑賞会
- デジタルミュージアムに新コンテンツ追加！
- 学芸室こぼれ話
- 令和5年度の新収蔵品
- アラカルト ただいま展示中

企画展(1F第7・8・9展示室、2F第2展示室)

特別展「まるごと奈良博—奈良国立博物館 至高の仏教美術コレクション—」

主催／「まるごと奈良博」展実行委員会(石川県、石川県立美術館、北國新聞社) 特別協力／奈良国立博物館 特別協賛／DMG森精機

後援／一般財団法人石川県芸術文化協会、石川県教育委員会、富山県教育委員会、福井県教育委員会、金沢市教育委員会、NHK金沢放送局、MRO北陸放送、テレビ金沢、HAB北陸朝日放送、石川テレビ放送、金沢ケーブル、エフエム石川、ラジオかなざわ・こまつ・ななお

7月6日(土)～8月25日(日) 前期:7月6日(土)～28日(日)／後期:7月31日(水)～8月25日(日)

来年開館130年を迎える奈良国立博物館は明治28年(1895)の開館以来、特に古都奈良の杜寺に伝わった仏教美術の保管や展示につとめ、「奈良博」の愛称で広く親しまれてきました。令和3年(2021)に開催した「奈良博三昧—至高の仏教美術コレクション—」では、来場者の目線に立ち、やさしく分かりやすい解説や親しみやすい展示で、仏教美術の魅力を紹介し大きな話題となりました。本展はその「奈良博三昧」展のエッセンスをそのままに、北陸石川の仏教への篤い信仰と文化風土を背景に開催するものです。展示総数は前後期あわせて200件あまり、国宝8件を含む約100件の国指定文化財が当館にやってきます。これは奈良博の所蔵する指定文化財の約8割に相当し、130年の奈良国立博物館史上初の出来事です。

展示構成は「奈良博三昧」展をほぼ踏襲し、釈迦がブッダ(仏)として教えを広めた生涯を紹介する第1章「ブッダの造形」にはじまり、南都と呼ばれた奈良の寺院に伝わった仏像・仏画を紹介する第9章「南都ゆかりの仏教美術」までを通して、日本仏教史1400年を辿ります。さらに本展では、第10章を「北陸ゆかりの至宝」として、東大寺が北陸に有した莊園の墾田図や白山信仰の仏、さらには県内の寺院から奈良博に寄託されている仏画など、北陸ゆかりの至宝を紹介します。

なお、この「ほとけさま」の展覧会は能登半島地震の被災地支援の思いを込め、内灘以北の小中学生を無料で招待します。また、音声ガイド(有料)や子ども向けワークシート(無料)も用意して、皆様をお待ちしております。

観覧料

一般	1,500円
大学生	1,000円
高校生	800円
小中学生	500円

※いずれも前売りは当日の100円引き、20名以上

上の団体は200円引き

※2階コレクション展観覧料を含む

関連イベント

井上館長(奈良国立博物館)と青柳館長(石川県立美術館)の記念対談をはじめ、記念講演会、ワークショップやトークショーなど、楽しいイベントが目白押しです。詳細は本誌・当館公式ウェブサイト・チラシをご覧ください。また各種お申し込みは同ウェブサイトで受け付けます。



重要文化財《愛染明王坐像》快成作
鎌倉時代(13世紀)



《金剛童子立像》鎌倉時代(13世紀)



国宝《十一面観音像》平安時代(12世紀)
前期展示

※すべて奈良国立博物館蔵

歴代藩主の甲冑・陣羽織と 加賀象嵌鎧Ⅱ

7月6日(土)～7月28日(日) 会期中無休

学芸員の眼

奈良国立博物館が所在する奈良の地には、かつて都が置かれ、鎮護国家を目指す天皇により国家的な巨大寺院や神社が建設されました。そこでは連綿として信仰、そして美術・文化が受け継がれてきたことは周知のとおりです。そして明治初めに廃仏毀釈の波が押し寄せた時、先人の英知によって「古器旧物保存方」、「古社寺保存法」が制定され、救われた多くの文化財があると

いう歴史の流れを、我々が今回目にする仏教美術の多くからも感じていただけるのではないのでしょうか。本年元旦、能登半島を襲った巨大地震に被災した文化財を救ういわゆる「文化財レスキュー」にも、奈良国立博物館の研究員が参加し、活動しておられますが、そのことも明治の先人達の思いと重なるように思うのです。

重厚で強靱な甲冑に対し、甲冑の上に羽織る陣羽織は、軽やかな羽織りものです。袖のあるものとないうものがあり、人目を引くようなデザインに、フェルトやビロード、羅紗^{らしゃ}、更紗^{さらさ}など珍しい輸入裂が用いられました。

今回紹介する陣羽織からもわかるように、歴代藩主の陣羽織として、もっともよく見られるデザインは、「日の出に立波文」です。波しぶきをあげる海に日が昇るという、めでたい図柄が好まれました。同じデザインでありながら、5代綱紀、6代吉徳、11代治脩所用の陣羽織の地色は黒。8代重熙所用の陣羽織は地色が黄色で、雰囲気は異なります。今回のⅡ期では、10代重教所用の緋色地の陣羽織を紹介します。

なお、この波しぶき模様について、縫い目が見当た

らないとの質問をよくいただきます。これは、異なる裂地を嵌め込む「象嵌^{ぞうがん}」の技法が用いられているからです。展示されている陣羽織を見て、気がついてもらえると嬉しいです。

また、展示してある状態ではわかりづらいですが、裏地はとても派手で、表地とちがって個性豊かなものとなっています。前田家は3代利常の時代に長崎の出島で大量の裂を購入していることから、これらの裂が用いられました。

一方、14代慶寧の陣羽織は、羅紗と更紗が用いられた、鮮やかで異国情緒豊かなデザインです。背中には星梅鉢があります。同じく輸入裂が使用されました。こうしたさまざまな個性豊かな陣羽織をご鑑賞ください。



《日の出に立波文陣羽織》10代重教所用

近現代絵画・彫刻(第4・6展示室)

優品選

7月6日(土)～7月28日(日)

7月31日(水)～8月25日(日)

同時開催の特別展「まるごと奈良博」展に関連し、優品選は第4・6展示室で開催いたします。

第4展示室で展示の油彩画分野では、宮本三郎《阿修羅》^{しゅら}をご紹介します。宮本は戦後に具象画家としての自己の資質と抽象画との接点を求めて、大和の古仏のスケッチに励みました。本作では、抽象画の研究成果である絵具の物質性を強調する複雑なマチエールによって、重厚な絵肌の中に、興福寺の阿修羅像の端正な姿を描き出しています。彫刻分野からは、村井良樹《麗日》をご紹介します。裸にシャツを羽織った女性像。丹念なモデルの観察に基づいた造形は、女性の実在感、瑞々しさを感じさせるとともに、清新な雰囲気をもっています。具象彫刻に取り組み、生命感を重視し制作を続けてきた作者の、初期の優品とい

える作品です。

第6展示室では、ガラスケース内は古美術部門(九谷焼)の展示となり、日本画は壁面のみの展示となります。久しぶりの展示となる安田靫彦《飛鳥をとめ》^{ゆきひこ}は、紫香楽宮跡から発見された和銅製の首にヒントを得て制作されました。特別展に漂う飛鳥・天平の香りに合わせて出陳します。また、同展示室では東山魁夷の版画作品《海山十題》^{かいゐ}もご紹介します。東山魁夷は、唐招提寺御影堂障壁画の床の間を飾る制作準備のため、日本の風景の原型を求めて8か月におよぶ日本各地の海と山の写生を重ねたといえます。東山魁夷がとらえた日本の理想的な海と山の姿を、この作品を通して味わうことができるでしょう。



安田靫彦《飛鳥をとめ》

古美術(第6展示室)

九谷焼

7月6日(土)～7月28日(日)

7月31日(水)～8月25日(日)

古九谷を常設展示している第2展示室が特別展「まるごと奈良博」の会場となるため、古九谷と一部の再興九谷の名品を、「九谷焼」として第6展示室に展示します。今回はこの機会に、古九谷の二大様式である色絵(五彩手)と青手(塗埋手)がどのように誕生したかを考察します。

古九谷の特質として最初に挙げられるのは、高度な絵画的加飾です。次に挙げられるのは、その加飾が含蓄に富んでいることです。そして最後に挙げられる特質は、加飾における独自の空間感覚です。すなわち、県文《色絵鳳凰図平鉢》に発揮された俵屋宗達風の大膽な余白の取り方の一方で、その余白を徐々に埋めてゆく明確な志向性が存在しています。たとえば県文《色絵百花散双鳥図平鉢》、《色絵石畳文平鉢》、県文《色絵鶴かるた文平鉢》を県文《色絵鳳凰図平鉢》

と比較すると、空間を描き埋めようとする意識が徐々に具現化している事実を確認できます。そこに、最も高価な青色顔料であるヨーロッパ産のスマルト使用の有無を重ねると、色絵様式が青手様式に幾分先行すると判断することができます。もちろん織部陶の存在から、青手が色絵に先行するという見方もできますが、織部様式から高度な画技を駆使した五彩手の様式が誕生したとは考え難いです。したがって先述の様式変遷から、空間を埋める美意識が支配的となり、省コスト化、省力化、量産化の方向性が加賀藩主によって打ち出された結果、青手様式が誕生したと考えるのが自然です。そしてこの空間を描き埋めようとする意識は、吉田屋窯や宮本屋窯にも確かに継承されています。



石川県指定文化財《色絵鶉草花図平鉢》古九谷

7月の行事予定

■井上館長(奈良国立博物館)×青柳館長(石川県立美術館)記念対談

日時 7月6日(土) 13:30~15:00(13:00開場)

登壇者 井上洋一氏(奈良国立博物館長)

青柳正規(当館館長)

会場 石川県立美術館ホール

定員 200名

対象 どなたでも

入場無料、申込不要、先着順

■親子向けわくわくトーク

「『ほっとけ』んよ！奈良博のお宝！」

日時 ①7月14日(日) 13:30~14:15

②7月14日(日) 15:00~15:45

講師 石川県立美術館学芸員

会場 石川県立美術館ホール

定員 各回200名

対象 どなたでも

入場無料、申込不要、先着順

■記念講演会

「奈良国立博物館の仏教美術—彫刻を中心に—」

日時 7月20日(土) 13:30~15:00(13:00開場)

講師 奥 健夫氏(武蔵野美術大学教授)

会場 石川県立美術館ホール

定員 200名

対象 どなたでも

入場無料、申込不要、先着順

■ワークショップ

「消しゴムはんこでほっとけさまをつくろう」

日時 ①7月24日(水) 13:30~15:30

②7月25日(木) 10:00~12:00

講師 諸行無常ズ

会場 石川県立美術館講義室

定員 各回20組

対象 小学4年生以上(小学生は保護者同伴でお願いします。)

参加無料、要申込(詳細は当館公式ウェブサイトにて。)

■ワークショップ

「仏像ハカセのほっとけさまファッション講座」

日時 ①7月27日(土) 13:30~14:15

②7月27日(土) 15:00~15:45

③7月28日(日) 13:30~14:15

④7月28日(日) 15:00~15:45

講師 岩井共二氏(奈良国立博物館美術室長)

会場 石川県立美術館講義室

定員 各回15名

対象 どなたでも

参加無料、要申込(詳細は当館公式ウェブサイトにて。)

近現代工芸(第5展示室) まるごと魅せます いしかわの工芸

7月6日(土)~7月28日(日)

7月31日(水)~8月25日(日)

工芸の鑑賞を楽しみたいのだけれど、どのように
つくられているの？材料は？どこに注目して見たら
いいの？そもそもどのような作品があるの？……な
どなど、さまざまなお声が聞かれます。今回、企画展
示室で特別展「まるごと奈良博」が開催されており、
奈良国立博物館がまるごと当館に登場しております
ので、それならばコレクション展でも、当館所蔵の工
芸の名品をまるごと皆様にお魅せしちゃおう！とい
う内容でお届けいたします。2期にわたる特集展示
となります。

久しぶりの展示となる松田権六《蓬萊之棚》は、松
竹梅と鶴亀の吉祥文が表現されています。松と梅は

扉の裏にあらわされ、竹は両扉側面の網代で代用さ
れています。鶴は、20羽の真名鶴が卵殻・平文などの
高蒔絵で全面に表現されているのに対して、亀は探
してみても水中にいらるとして描かれていません。
古様にのっとって、両面開きの扉を持つこの棚の
制作にあたっては、第二次世界大戦の敗色の濃い、明
日の運命も知れぬ中、遺作となることを覚悟しての
ぞみました。作者の持てる技術の総てが注ぎ込まれ
た大作となっています。

第5展示室前に設置されているデジタルミュージ
アムの解説動画と併せてお楽しみください。



松田権六《蓬萊之棚》

0才からのファミリー鑑賞会

あかちゃんから小学生までの小さなお子さんと、美術館デビューをしてみませんか？

全国さまざまな美術館で乳幼児からの鑑賞会をサポートしている富田めぐみ氏を講師にむかえ、2階コレクション展示室で楽しく作品を鑑賞します。それぞれの年齢に応じた鑑賞の仕方、ご家族と一緒に展示室をまわり、のびのびじつくりと楽しみましょう。今年度はコレクション展示室(第5展示室)の特集展示「いきもの発見！」にて、工芸作品を中心に鑑賞します。

日時 … 8月31日(土) 15時～16時

9月1日(日) ①10時～11時

②13時30分～14時30分

講師 … 富田めぐみ氏(NPO法人赤ちゃんからのアートフ렌

ドシップ協会代表理事)

対象 … 0才～小学生までのお子さんとそのご家族

定員 … 各回5組20名程度(先着順)

参加費 … 高校生以下無料、ご家族内おとな2名まで無料

申込み … 7月初旬頃、インターネット(Peatix)にて受付開始予定。定員に達し次第締め切り



昨年度の鑑賞会の様子

デジタルミュージアムに新コンテンツ追加！

当館で楽しめるデジタルミュージアム「美術とあそぶ」と「美術をまなぶ」に新たなコンテンツが追加されました。

■美術とあそぶ(1階ロビー)

こちらでは「動かす」と「あそぶ」の2つのコンテンツがお楽しみいただけます。「動かす」では身体を使って操作することで、作品を360度どこからでもご覧いただけます。こちらには新たに6点の作品を追加しました。

「あそぶ」には中野孝一氏の《波兎蒔絵小筆筒》を追加し、作品の引き出しを開けて楽しめます。

■美術をまなぶ(2階コレクション展示エリア内)

※コレクション展の観覧券が必要です。
4K映像で作品を紹介するコンテンツです。こちらには新たに13点の作品を追加しました。

また、人間国宝(重要無形文化財保持者)へのインタビューでは、新たに漆工の前史雄氏と金工の中川衛氏の映像がご覧いただけます。



「美術とあそぶ」では全身を使って作品を楽しめます。

学芸室いばれ話

寺川 和子(学芸第二課長) 「縁に連るれば…」

どんな仕事もそうですが、様々なかたちで人の縁を感じることがあります。採用されて間もない頃に、同じ文化庁の研修を受けた他館の方と、後年一緒に仕事をする機会があると、感慨はひとしおです。また展覧会の資料を探して、亡くなられた恩師の著書にたどり着くことは少なからずありますが、以前講演会の講師として招聘した方から、当時の私の研究テーマについて、恩師が嬉しそうに話していたと聞いたときは、身の引き締まる思いでした。不思議なことに時を経た今の方が、恩師の言葉を思い出す機会が増えたように感じられます。



令和5年度の新収蔵品

No	分類	作品名	作者名	員数	制作年	寄附者
1	陶磁	重要文化財 染付竜文花生（白衣）		1口	14世紀・ベトナム	個人
2	水彩・素描	アコーディオン	鴨居玲	1点	昭和49年頃（c.1974）	加藤 英
3	油彩画	妙高高原の春	大滝由季生	1面	昭和59年（1984）	大滝キミ子
4	油彩画	早春浅間	大滝由季生	1面	昭和61年（1986）	大滝キミ子
5	彫塑	麗日	村井良樹	1体	平成7年（1995）	村井良樹
6	彫塑	刻を待つ	村井良樹	1体	令和2年（2020）	村井良樹

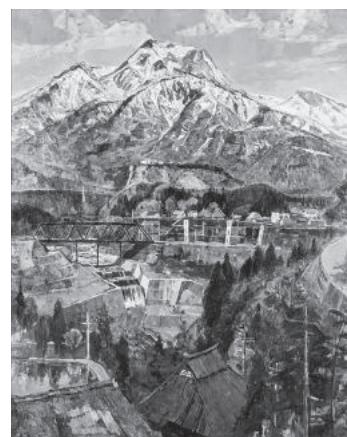
令和5年度新収蔵品6点 収蔵品総計（令和6年4月末現在） 4,059点



1. 重要文化財《染付竜文花生（白衣）》



2. 鴨居玲《アコーディオン》



3. 大滝由季生《妙高高原の春》



4. 大滝由季生《早春浅間》



5. 村井良樹《麗日》



6. 村井良樹《刻を待つ》

《青銅器「瑞鳥」》せいどうき すいちょう

高31.0 幅33.7 奥行33.7 (cm)
昭和54年(1979) 第11回改組日展

板坂辰治 いたさかつじ

大正5年(1916)～昭和58年(1983)



角が上向きになった方壺の中央に、鳥や翼を連想させるモチーフがレリーフ状に配置され、周囲を躍動感のある線文がめぐります。全体の形状は、日本古典建築の屋根の曲線を器のかたちに取り入れたもの。ある時は崇高に、ある時は優しく人々の心に残る屋根の曲線美は、日本建築の美しさを象徴するものであると作者はいいます。本作ではそのフォルムを、瑞鳥の飛翔にたくして形づくっています。

本作の素材は青銅、着色は「焼緋銅おはぐろ」という技法によりまします。緋銅

は、銅を熱して急冷することで濃く明るい赤、つまり緋色の地を得る技法で、作者にとつては重厚さや強さを表現したいときに用いる着色法でした。おはぐろは、日本酒や食酢に焼いた鉄屑などをに入れて寝かせたものを水で薄めた「鉄漿液」を、掃きながら焼きつける技法です。これによりムラが出て、深みのある色彩が実現しています。

板坂辰治は金沢市に生まれました。幼い頃から絵や彫刻が好きで、迷わず東京美術学校(現・東京藝術大学)への進学を決めました。同校では、石川県出身の工芸家、彫刻家を何人も指導した金工家・高村豊周(とよちか)に師事し、在学中に文展初入選を果たしています。昭和13年(1938)に卒業した後は大阪造幣局に勤務、戦後は金沢美術工芸専門学校(現・金沢美術工芸大学)で後進の指導にあたりました。

本作はコレクション展「まるごと魅せます いしかわの工芸」に展示いたします。ぜひご覧ください。

次回の展覧会

令和6年7月31日(水)
～8月25日(日)
会期中無休

前田育徳会 尊経閣文庫分館	第5展示室	第4・6展示室	第6展示室
重要文化財 周文《四季山水図》と 中国の絵画論 —尊経閣文庫の漢籍から—	まるごと魅せます いしかわの工芸	優品選 【近現代絵画・彫刻】	九谷焼

企画展示室・第2展示室

まるごと奈良博
—奈良国立博物館 至高の
仏教美術コレクション—

ご利用案内

コレクション展観覧料

一般 370円(290円)

大学生 290円(230円)

高校生以下 無料

※()内は団体料金

開館時間

午前9:30～午後6:00

カフェ営業時間

午前10:00～午後6:00

7月の休館日は

1日(月)～5日(金)
29日(月)～30日(火)

石川県立美術館だより
第489号(毎月発行)
2024年7月1日発行

〒920-0963

金沢市出羽町2番1号

Tel: 076(231)7580

Fax: 076(224)9550

URL <https://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/>

石川県立美術館は電源立地地域対策
交付金を活用して運営しています。

創業30年余の五木屋本舗で不動のナンバー1
もろあじこ!? のような食感と風味 ご飯のお供にピッタリな豆座のみそ漬

山にとうふ オリジナル

100g/ 710円 (税込) 広告

全国一律 3個以上のご注文で 送料無料!!

※3個未満の場合、830円～2,300円の送料がかかります(税込・クール料金込)

●お申し込みはお電話で ●受付時間9:00～17:00(日曜・年末年始 休)

豆座の味噌漬を日本の食卓へ

五木屋本舗 有限会社

〒868-0203 熊本県球磨郡五木村内635-3

050-1868-6979